

快感 理事*辻 由美

2005年度NPO法人都市生活コミュニティセンターの理事になり、多くの人と接することができる立場は、私にはとても意義のあることに思う。たとえパートの仕事をしていたとしても、これほどたくさんの人と話したり、共に作業したりすることはできなかつたらう。そんな活動の中で、考え方や感じ方の違いを知る時、またお互いの気持ちが通じ合えた時ほど新鮮でわくわくすることはない。物事の捉えかたは人さまさままで、感心したり、共感したり、反感を抱いたりなど、その時によって受ける感情は違う。相手との意見がなぜ違っているのかを考え、そのことから離れられなくなったりする。活動を通してそのような機会をもち、考える時間が増えたように思う。地域の中での自分はどういたいのかと、考えずにいたことにも少し目を向けられるようになった。知らずにいることばかりで、日々学び、必死になれる自分が好きだ。わかりたくて全身が耳になっている時はホントに快感なのである。

「自分たちの暮らす地域で、この街を暮らしやすい街にしたい」

あしすと
武庫之荘

そんな同じ想いを持った人たちが集まって、自分たちで考え、自分たちで事業を運営する、地域に共同と自治を根付かせることを目指しています。

■ 立ち上げ理由

- 1) 自分の親の老後と自分たちの老後はどうなるのか?
- 2) だれが面倒みるのか、離れて暮らす親をどうするのか?
- 3) 自分がみることができなければどうしたらいいのか?

■ 自分たちが新しいしくみを作り上げる。

- 1) 介護保険導入で長男の嫁だけが親をみる時代ではなくなった
- 2) 子どもだけが親を介護する時代ではなくなった
- 3) 介護できないことを負い目に思う時代ではない
- 4) 社会や地域でひろくみんなで世話することも世話されることも平気になる、あたり前になる時代にする

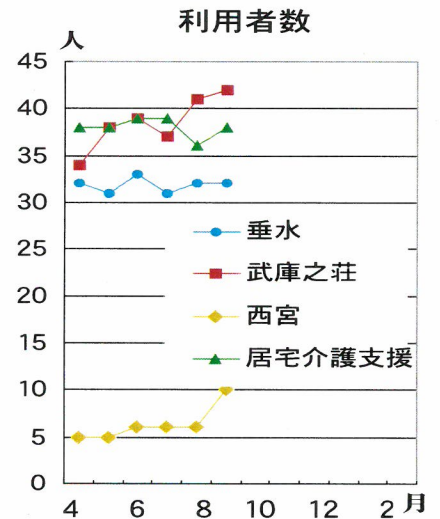
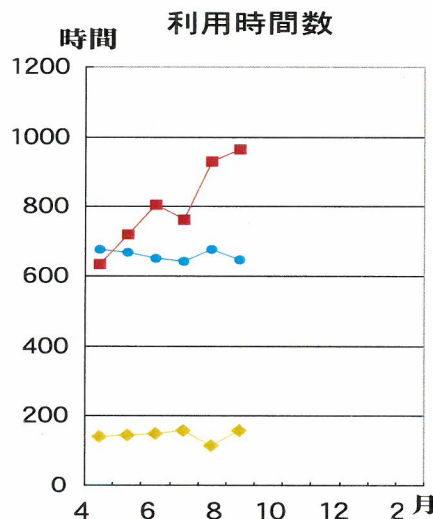
私たちは地域社会をよくしたいというモチベーションで働きます。

高齢者介護を「社会のたすけあい」の一環であると考え非常にやりがい感をもって働いていこうと思います。

2005年度☆介護保険事業報告

- ★あ・し・す・と (垂水)
- ★あしすと武庫之荘 (尼崎)
- ★あしすと西宮 (西宮)

- 現在、3つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。
- 武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)、支援費事業も行っています。



山古志訪問記 (前回より)

第2回 ヤマのくらしと復興 ……青木勝さん (長岡市山古志地域復興推進室長) に聞く

「山のくらし」の価値を再認識すべきです。平地に対する治水の問題ひとつとってみてもそれは明らかです。山にくらす人びとは現金収入だけが生活の糧ではありません。適度に体を動かすことによる健康上のメリットもあります。年金があれば高齢者でも生活できるのです。さらに共同体や集落がもつ機能にも着目すべきでしょう。これまで長年にわたって山古志に住んで来た高齢者に、例えば何千万円かを渡して平地に住宅を手当てして山から下ろしてしまったら大変なことになります。こうした人びとは「そこ(山)でしかくらしせない」が、「そこ(山)でならくらしせる」のです。

しかし、「ヒラ場」の人間には不満もあるでしょう。山のくらしの経済価値はなかなか数値で出てきません。日本経済のプラスとして評価されにくいのです。だからこそ、ひとのライフサイクルの中に中山間地のくらしを位置づける必要があるのです。

かつて山の地域力を低下させたものの一つに出稼ぎがありました。しかし出稼ぎに行っていた人は現金だけでなく、知識や情報や技能を一緒にもって帰ってきました。いまでは地方産業が発達したため、地域雇用が増加して、出稼ぎの必要もあまりなくなりました。こういう状態では目的意識を持たないと後退してしまいます。いまや、別の意味の「出稼ぎ」を復活させるべきだと思います。つまり出稼ぎをライフサイクルの中に位置づけるのです。若い頃は都会や街に出るもよし。そうして中高年になったら山に戻ってくらす。団塊の世代こそ、まさにその候補でしょ

う。

山のくらしをヒラ場に近づけようとしたこれまでの政策は誤りだったかもしれないと思っています。企業誘致などの失敗が典型例です。合併後の長岡市は、人口のほとんどが市街地に集中していますが、面積の7割は山地です。この点では、まさに日本の縮図とも言えます。山古志の復興はこうした文脈の中で進めていかなければならないと考えます。

中山間地の再生という目標からみれば、今度の震災は千載一遇のチャンスといえないでしょうか? 「60歳からは地域の貢献者になる」というスローガンを掲げたいと思います。そもそも高齢化はそんなに悪いことなのでしょうか? 長生きしたくてもできなかった時代には、長寿はまさに追求すべき幸福だったはず。高齢化が問題視されるというのは、どこかが間違っているのです。



神戸市内でのイベント会場で山古志の住民によるワラジなどの
わら細工の実演が行われた=8月28日

～インフォメーション～

● 介護相談 (あいたくて都市生活開催会場にて)

10月30日(日) 11時～15時 会場: 神戸サンボーホール (ポートライナー貿易センター駅下車すぐ)
主催: 都市生活ヘルパーステーションあしすと武庫之荘

● 11月<鍋の会> 毎月第2・第4日曜日午後1時～5時

主催 (特) ニュースタート事務局関西

『鍋の会』は引きこもりや神経症の若者のグループセラピー、また他人との会食の機会の少ない若者が集まって鍋を囲み、団欒の楽しさを知り、対人恐怖を拭き去る、そして段階的に社会性を身につけていただく場

場所=新・共同生活寮(新・ドミドリー) JR摂津富田駅 徒歩5分
参加料は無料です。(但し例会に2回以上参加したことのある人とその家族)
☆大人(社会人)の参加者は、鍋料理の材料(肉・魚・野菜・豆腐・春雨等なんでも)や、酒類、調味料など、なにか一品持参。資金カンパも歓迎。
事前申込制で、参加人数は25名までを基本。

問い合わせ先*電話&ファックス 072-694-3933 ニュースタート事務局関西